

新聞づくりを通して学び合う子どもたち

指定校 1 年次 大桑村立大桑小学校 末木 吾朗 今井 正広 元下 漠

(1) 本校の新聞活用 (NIE) の現状

本校は全校児童 185 名、村内の 3 つの小学校が統合して 11 年前に開校した。平成 25 年度は学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」のもと、「友だちの意見を聞き、自分の考えと比較検討し、自分の思いを伝える活動を通して、子どもたちの理解がより深まる授業のあり方」を全校研究テーマとして掲げ、体育科と NIE の研究をすすめてきた。

実践を行った 4 年 1 組は、日頃から新聞を読んでいる子は少なく、学校の図書館で小学生新聞を閲覧する姿が見られる程度だった。ただ、3 年時に社会見学の後、新聞形式に学習のまとめをした経験があり、新聞を作ることに興味を示していた。

また、校内の研究部会で新聞活用についてどのようなことを研究していきたいかを検討したところ、「社会科などで学習のまとめに新聞づくりをすることがあるが、指導のポイントがよくわからないので、新聞づくりのノウハウを知りたい」という声があがった。そこで、1 年次の方向としてどのような新聞活用ができるか探りながら、新聞に親しむことと新聞づくりを進めていくことにした。

(2) 実践のねらい

①新聞に興味関心を持たせる

本校児童の現状をふまえ、まず新聞に興味関心を持つことが大切だと考えた。新聞に触れる機会を増やし、各学年の発達段階に応じた活用を模索する。

②新聞づくりのこつを学ぶ

教師が新聞づくりのこつを学び、学習のまとめなどで新聞を作る際の指導に活かす。また、児童も新聞づくりを通して、調べる力、伝えるための文章力を伸ばすことが期待できる。

③新聞づくりを通して意見交換をさせる

できあがった新聞を相互評価することはもちろん、製作過程での相談やグループ活動として制作する等、児童がコミュニケーションを取り合う場にする。

(3) 研究の概要

①児童が新聞に触れる機会をつくり興味関心を持たせる

○新聞の提供状況

平成 25 年度は、9 月から 12 月まで「朝日小学生新聞」「毎日小学生新聞」「讀賣新聞」「日本経済新聞」「信濃毎日新聞」「中日新聞」の 6 紙を提供していただいた。

○閲覧場所

児童昇降口のホールに長机 2 台を置き、児童が登校するとすぐに見られるようにした。長机の後ろにはホワイトボードを置き、前日の新聞から特に児童が興味を持ちそうな記事が出ている面を表にして掲示した。前日の新聞は、二階史料室横のスペースに長机を置き各新聞ごと重ねておいた。当日の新聞はその場で閲覧することを原則とし、一週間分は 2 階スペースで閲覧、それ以外は申し出があれば自由に使ってよいこととした。

○児童の様子

- ・登校してきた児童がカバンを背負ったまま新聞を読んでいる姿が多く見られた。低学年は主に小学生新聞、高学年は一般紙にも目を通していった。



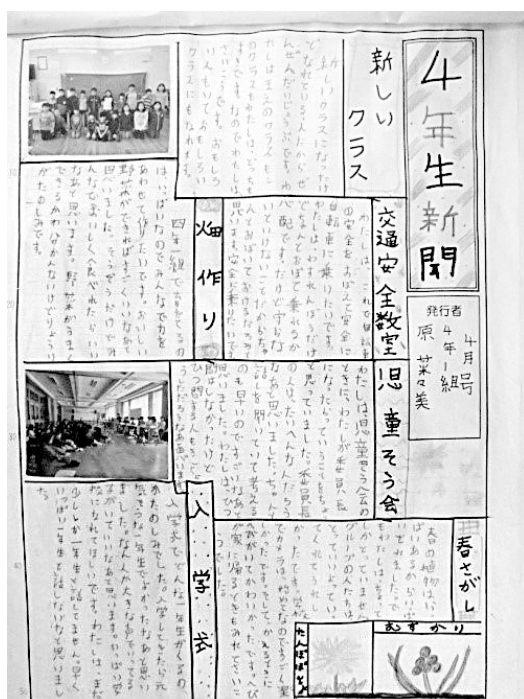
- ・どんな記事を読んでいるか観察したり児童に尋ねたりしたところ、4コマ漫画、写真、が多かった。「朝寝坊してテレビで天気予報を見られなかったから、天気予報を見ている」という子もいた。3年生男子数人がヤクルトのバレンティン選手のホームラン記録の記事を見て話をしていたり、釣り好きの子ども達が釣り情報を見ていたりすることもあった。
- ・6年生は月齢を新聞で調べるのが宿題になっていたらしく、「家で新聞をとっていないのでこの新聞をください」と言ってきた子がいた。

②新聞づくりを積み重ねる

○『自分新聞』づくり

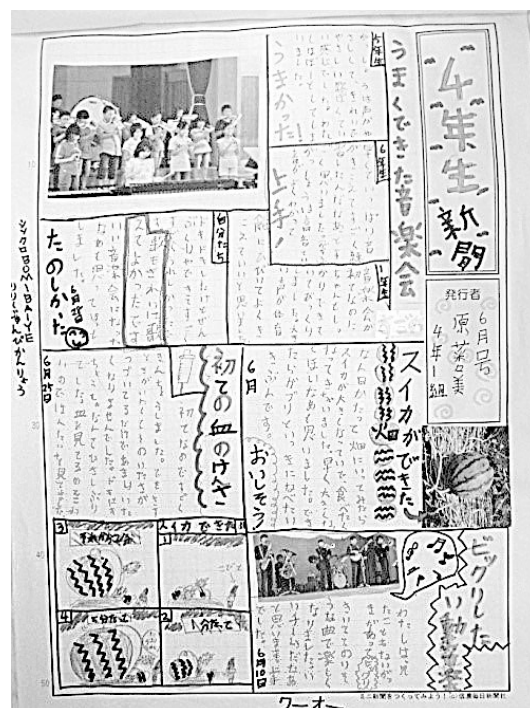
4年1組では、総合的な学習の時間の中核活動として新聞づくりを取り入れた。1学期は、ほぼ1か月に1枚『自分新聞』をつくった。

『自分新聞』は、割り付け、記事の内容や見出し、写真なども子ども達が自由に考えた。4月は、学校生活や身の回りのできごとを記事にした。一枚の紙面を埋めるのは結構大変で、何を記事にしようか困ってしまう子もいた。そこで、6月は音楽会の記事を必ず入れるようにしたところ、一番大きな記事ができてスムーズにつくることができた。その後も、8月は夏休み、9月は運動会というように大きなテーマを決めてつくるようにした。



Aさんの4月新聞

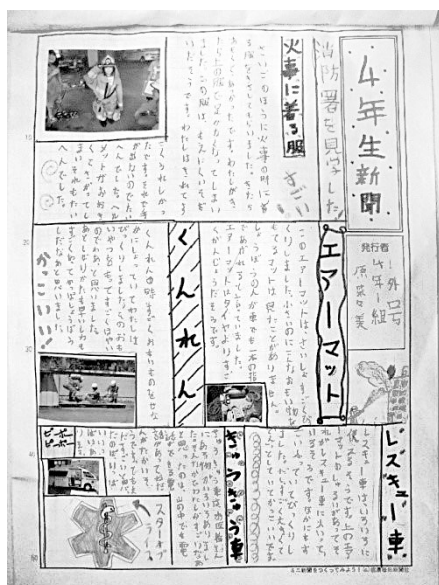
記事は「新しいクラス」「交通安全教室」「畑作り」「児童総会」「春さがし」「入学式」の6つ。どの記事も同じくらいのスペースで割り付けられている。



Aさんの6月新聞

「うまくだきた音楽会」「スイカができた」「初めての血のけんさ」「びっくりした移動音楽教室」と4コマ漫画。音楽会の記事がメインになっている。

○見学のまとめ新聞



5月に4年生は消防署の見学をし、そのまとめ新聞をつくった。『自分新聞』とちがい、見学してきた内容が記事になるので、4年生なりに楽しみながら学習のまとめができた。

Aさんの消防署見学新聞

「火事に着る服」「エアーマット」「くんれん」「レスキュー車」「きゅうきゅう車」と単語の見出しが並んでいる。「すごい!」「カッコいい!」の文字も。

これまでも私たちは、社会見学の後等にこのようなまとめの新聞を児童につくらせてきた。先にも述べたように、子ども達は楽しみながらつくるが、何をポイントに指導すればよいかはつきりせず、子どもに任せきりになりがちであった。そこで、子どもと共に教師も新聞づくりを学ぶことにした。

③新聞づくりを学ぶ

○出前講座

授業学級の4年1組で、7月に信濃毎日新聞社の新聞記者の方に出席講座をしていただいた。4年生は社会科で浄水場を見学したので、そのまとめ新聞をつくるということをテーマに教えてもらうことにした。

まず何を記事にするかを決め、ワークシートに「一番心に残っていること」を書くのだが、書くのが苦手な子どもも四十字のマスを見て少し安心した様子だった。次に、そのことを詳しく伝えることを三つ、これも短い言葉で書く。最後に思ったこと、感想を書くが、これも二十字ほど。その後「二番目に心に残っていること」「三番目に心に残っていること」も同じようにワークシートに書き準備完了。

次は記事を書くが、ここでのポイントは「5W1H」。当たり前のようだが、子ども達がこれまで書いてきた記事を見ると、案外これがきちんとできていない。記事が書けたら、見出しを考える。見出しについては、私たち教師もしっかり理解できていなかったことがあった。それは、記事の内容が一目でわかる「事実を伝える」ということである。感想や「なぜ〇〇なのか」というような問いかけは、新聞の見出しにはふさわしくないとわかった。

浄水場見学は、記事になりそうな内容が少なくて難しいと思われた。それでもワークシートに書き込み、記事を書いて見出しをつけると新聞らしく仕上げることができた。



出前講座の様子



Aさんの浄水場見学新聞

記事は3つ。「上のきれいな水は、のみ水に」「水に薬を」「すなそうで水をきれいに」と記事の内容がわかる見出しになっている。

④かべ新聞づくり（公開授業）

○指導案（NIE 実践指定校公開授業）

日 時 平成25年10月 9日

場 所 4年1組教室

学 級 4年1組

授業者 元下 漠

1 単元名 「わたしたちの長野県」（全20時間扱い）

小単元 「長野県の広がり～長野見学のまとめ新聞をつくろう～」

2 小単元設定の理由

4年1組の子ども達は、仲が良く、誘い合って遊ぶ姿が見られ、学習においてもお互いに批正し合ったり自然に手助けしたりできる。学習に取り組む意欲が高まってきているが、個人差が大きく、自分の考えを持つことができない子や考えがあっても発言ができない子もいる。そのような児童も4月から総合的な学習の時間に取り組んできた「自分新聞」づくりでは、それぞれ工夫をして楽しみながら活動していた。社会科の学習では、調べ学習に意欲的に取り組み、見つけた資料を教え合うなど協力しながら学び合う姿がみられる。浄水場見学の後には、新聞づくりの基本を新聞記者の方から教わり、まとめに生かすことができた。

長野見学は4年生が楽しみにしている学年行事である。県庁がある長野市までに木曽郡内の町村、塩尻市、安曇野市など多くの市町村を経由していくため、これから自分たちの県を学習していく導入として位置づけることができる。見学場所の一つである善光寺三門の改修に、大桑村の栗山木工で加工された木曽のサワラ板が使われており、栗山木工を見学することで、自分たちの住む地域とのつながりを感じとり学習意欲が高まることも期待できる。また、多くの見学場所や経由した市町村について分担してまとめ新聞を作ることは、長野見学の成果を共通のものとして次時以降の学習に生かしていくのに有効であると考えられる。

3年時から学習してきた自分たちの住む大桑村・木曽郡を出発点として、県内の他地域を調べること、長野県の特徴を知り、視野を広げていくことを願い、本小単元を設定した。

3 単元の目標

(1) 主目標

自分たちが住む長野県の広さに関心を持ち、長野県の地形や主な産業、観光の様子や主な都市の位置を調べたり、特色のある地域について調べ、それぞれの地域に暮らす人々の生活の様子を比較したりすることを通して、長野県の特徴について考えることができる。

(2) 具体目標

A【社会的事象への関心・意欲・態度】

ア 長野県の地形や産業などの概要と、そこに見られる人々の生活の様子に関心を持ち、長野県の様子や県内の特徴ある地域の生活について進んで調べようとする。

B【社会的な思考・判断・表現】

ア 特色ある地域を比較、関連させて長野県の地形や産業の特徴、土地の特性を生かした産物を地域の資源として保護・活用し、地域の活性化に努めている人々の生活の特徴やよさについて考えている。

イ 長野県の地形や産業、観光などの特色や、県内の特徴ある地域の人々の生活について、考えたことを自分の言葉でまとめている。

C【観察・資料活用 of 技能】

ア 地図や鳥瞰図などの資料から、長野県内の各地域の地形の特徴を読みとっている。

イ 長野県全体の地形、主な産業や観光の概要、交通の様子や主な都市の位置などについて調べたことを基に、長野県の特徴をワークシートや学習新聞にまとめている。

ウ 長野県内の特徴ある地域の人々の生活について、調査して分かったことを白地図上に表したり、学習新聞を作ったりしてまとめている。

D【社会的事象についての知識・理解】

ア 長野県内における木曽郡（大桑村）、日本における長野県の地理的位置や、47都道府県の名
称と地理的位置などを理解している。

イ 長野県全体の地形、主な産業や観光の概要、交通の様子や主な都市の位置など、長野県の特
色を理解している。

ウ 長野県内の特色ある地域の人々の生活や産業と、国内の他地域や外国とのかかわりを理解し
ている。

4 単元の展開

学習問題	・ 学習活動	・ 指導	【評価】	時	資 料
オリエンテーション	長野県は、日本のどのあたりにあるのだろう。 ・ 県歌『信濃の国』DVDを見る。 ・ 長野県の位置を調べる。 ・ 白地図に47都道府県の名称を書きこみ、位置を調べる。 ・ 都道府県パズルで、47都道府県の名称と位置を当てはめる。	・ 『信濃の国』のDVDを視聴させ、長野県の学習をすることへの意欲づけをする。 ・ 1番の歌詞から、長野県が多くの県と隣接していることに気づかせ、長野県の位置や隣接県の県名を調べさせる。 ・ 白地図に47都道府県の名称、特産物など知っていることを書かせる。 ・ 都道府県パズルを提示し、都道府県の位置を覚えさせる。【Aーア Dーア】	1 2 3 4	県歌『信濃の国』DVD 地図帳 日本の白地図 都道府県パズル	
1 長野県の広がり	私たちが住む長野県は、どのような県なのだろう。 ・ 『信濃の国』の歌詞をもとに、地形や自然環境、産業、観光地について調べる。 ・ 県のマーク、県木、県花、県獣、県鳥、県庁所在地、人口などを調べる。 ・ 長野見学の行程を知り、通っていく市町村を調べる。 大桑村と長野市にはどのようなつながりがあるのだろう。 (栗山木工の見学) ・ 長野見学の見学場所について調べる。(時間外) ・ 栗山木工を見学し、どんなことをしているのか調べる。 長野見学 ・ 長野見学の新聞を作り学習のまとめをする。	・ 『信濃の国』の2番の歌詞から県内の地形を、3番から産業を、4番から観光を取り上げ、視点をもたせ調べさせる。 ・ 県のマーク、県木、県花、県獣、県鳥、県庁所在地や人口、高速道路などを調べさせる。 ・ 調べたことを発表させ、長野県の概要をつかませる。 ・ 長野見学の行程を提示し、通って行く市町村の位置、地形、特産物等をワークシートにまとめさせる。 ・ 長野見学の見学場所について調べる中で、善光寺三門を改修する際、屋根のサワラ材が木曽から提供されたことを知らせる。 ・ 屋根板に加工したのは、学校のすぐ近くにある「栗山木工」であることを知らせ見学させる。 ・ 木曽で切り出されたサワラが大桑村で加工され、善光寺をはじめ多くの文化財に使われていることを確かめさせる。 ・ グループ毎にテーマを分担して作らせる。 ・ 発表させ、見出しや記事の内容について話し合わせる。【Bーア Cーア, イ】	5 6 7 8 9 10 11 12 本時 13	木曽郡社会科資料集『わたくしたちの郷土』 地図帳 長野見学のしおり ワークシート 「善光寺三門の改修」 「栗山木工の仕事」 見学ノート	

2 特色のある地域 塩尻市はどんな特色があるのだろう。 - 人口推移のグラフや大きな会社がいくつもあることの資料から、塩尻市はどんなところか予想し、特色を調べる。 どうして檜川では漆器作りが盛んなのだろう。 - 檜川が300年以上続く伝統的な木曾漆器の町であることを、平沢地区の街並みの写真などから調べる。 安曇野市にはどんな特色があるのだろう。 - 北アルプスや田園風景の写真から、安曇野市はどんなところか予想し、特色を調べる。 安曇野では豊かな水を利用して、どのような作物を作っているのだろう。 - 安曇野で有名な米作りやわさび作りについて、自然条件を中心に調べる。 長野市にはどんな特色があるのだろう。 - 長野見学のまとめ新聞などから長野市の特色を予想し、特色を調べる。 県庁のある長野市は他の都道府県とどのようにつながっているのだろう。 - 東京とのつながりや、他の県とのつながりについて調べる。	「塩尻市の人口のうつりかわり」のグラフ、「塩尻市にある大きな会社」の資料を提示し、人口が増えてきたことや大企業があることを確かめ、特色を予想させる。 - 塩尻市や塩尻市観光協会のホームページから、塩尻市の概要について調べさせる。 “ワインと漆器のまち”というキャッチフレーズから、学習問題を設定し調べさせる。 - 長野オリンピックでは、木曾漆器で作られたメダルが使われたこと、昔からの技法を守るとともに、新しい木曾漆器を作ろうとしている若い職人について資料を提示し、努力している姿に着目させる。 - 安曇野市観光協会のホームページの写真を提示し、北アルプスの麓にあり、田園風景が広がる地域であることを確かめ、特色を予想させる。 “光と水と緑の郷、「安曇野」というキャッチフレーズから、豊かな水を利用した米作りやわさび作りに着目させ、学習問題を設定し調べさせる。 - 夏の日照時間が長く冷涼な気候により病虫害が少ないこと、年間通して水温が安定していることなどの自然条件を生かしていることがわかる資料を用意し調べさせる。 - 長野見学を想起させ、長野市の特色を予想させる。 - 地形などの自然条件、善光寺など歴史的な背景、新幹線や高速道路などの交通網がわかる資料を用意し、学習問題を設定し調べさせる。 - 冬季オリンピックの開催都市となり首都圏との交通網が整備されたこと、金沢市、上越市、福井市、富山市等と集客プロモーションパートナー都市として協力していることがわかる資料を用意し調べさせる。【Bーア、イ Dーウ】	14 15 16 17 18 19	「塩尻市の人口のうつりかわり」 「塩尻市にある大きな会社」 「塩尻市 HP」 「塩尻市観光協会 HP」 「くらしの工芸館パンフレット」 「安曇野市 HP」 「JA あづみ HP」 地図帳 長野見学新聞 地図帳 長野オリンピック VTR
学習のまとめ 「わたしたちの長野県新聞」を作り、長野県の特色をまとめよう。 長野県の特色を新聞にまとめる。	- これまで学習したことを想起させながら“健康長寿 No1”など長野県の特色を調べさせ、個々に新聞にまとめさせる。 - 木曾や大桑村と他地域とのつながりについても考えさせる。 【Bーイ Cーウ Dーイ】	20	「長野県 HP」 地図帳 資料集

5 本時案

(1) 主眼

長野見学新聞を分担して作った子ども達が、それぞれの記事の見出しを検討し合うことを通して、記事の内容や体験したことを振り返ることができる。

(2) 本時の位置

前時 長野見学新聞の記事づくり

本時

次時 他の見出しを考える

(3) 指導上の留意点

- ・事前学習の資料を確認できるように掲示しておく。
- ・新聞作りのポイントを確認できるように用意しておく。

(4) 展開

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	・ 指導	評価	時間	備考
問題把握	【学習問題】 自分たちの作った新聞が見る人にわかりやすい新聞になっているのだろうか？ ○「善光寺」「長野市までの市町村の様子」の2グループが新聞の内容を発表し、良さや改善点を出し合う。 ・栗山木工の材料のことが書いてあっていいなと思いました。 ・塩尻はワインが有名でぶどう畑のことがちゃんと書いてあってよかった。	・記事の内容について発言できるようにする。 ・見学したことや事前の学習がいかされているかを確認する。		10	グループの新聞
問題の追究	【学習課題】 読む人にわかりやすい見出しをつけて、一番伝えたいことをはっきりさせよう。 ○記事にふさわしい見出しをグループで考え合う。 ・木曽の木材が使われているという言葉が入っている方がいいと思います。 ・ぶどう畑から田んぼに様子が変わっていることを表していいと思います。 ○できあがった新聞を見て、気に入ったところや感想を学習カードに書く。 ・～さんの見出しが、内容がよくわかって気に入りました。 ・栗山木工の板が善光寺の三門に使われていることを伝えられてよかった。	・少人数のグループで話し合いができるようにする。 ・発表しているグループは各グループに参加して話し合いの手助けをする。 ・学習してきたことが見出しに生かせるよう助言していく。 ・意見を発表する際に良し悪しだけでなく根拠を示せるようにさせる。		25	長野見学のしおり
整理発展		見出しを考えることを通して、学習を振り返ることができたか。 (学習カード・発言)		10	新聞作りのポイント掲示

○授業のねらいと本時の様子

ここまで一人一人が新聞づくりをしてきたが、長野社会見学のためは4つのグループで『善光寺新聞』『県庁新聞』『美術館新聞』『通った市町村新聞』をつくることにした。ねらいは、できあがった記事の見出しをクラスみんなで考え合うことで、事前学習や体験を共通のものにすることである。

それぞれのかべ新聞を読み、いいなと思うことを出し合った後、新聞をつくったグループがある記事の見出しの候補をいくつか提示し、子ども達はその見出しについて意見を出し合っていく。

『善光寺新聞』では、善光寺の三門についての記事の見出しが話題になった。三門の改修には、木曽のさわら材が使われている。その屋根板を加工したのは、大桑小学校の近くにある栗山木工であり、長野見学の事前学習で子どもたちは栗山木工を見学したので、『三門に使われている大桑村のさわらは世界一』という見出しや『三門の木のかわらは栗山木工が作っている』がいいという意見が出された。その理由も、「善光寺の三門は木曽の木だと知らない人が多いので見出しにしたらしい」、「栗山木工に見学に行ったし、他の見出しだと栗山木工で作っていることがわからない」など、地域の人やものに心を寄せている発言が多くあった。

(4) 研究のまとめ

- ①身近に新聞がある環境をつくることで、児童は興味関心を高めていくことがわかった。
- ②私たちが最も望んでいた「学習のまとめ新聞づくりを指導するポイント」がわかってきた。記事の数、内容の決め方、記事の書き方、見出しのつけ方など、出前授業で教えていただいたことは、今後授業での新聞づくりに活かすことができそうである。
- ③新聞づくりを積み重ねたことで、子ども達が新聞づくりに慣れ、考えたり書いたりすることができた。4年1組Bさんの4月新聞と9月新聞を比べると、経験を重ねることで子どもが力をつけることがわかる。



Bさんの4月新聞

好きなゲームのことが多く書かれている。書くことが思いつかなかったのか、大きなイラストや4コマ漫画で紙面を埋めている。



Bさんの9月新聞

運動会で紙面が埋まり、メインの記事が大きく書けている。写真や4コマ漫画もバランスよく配置されて、読みやすさも増した。

- ④かべ新聞づくりでは見出しを考え合うことが、子どもたちの学び合いにつながった。本校の研究テーマ「友だちの意見を聞き、自分の考えと比較検討し、自分の思いを伝える活動を通して、子どもたちの理解がより深まる授業のあり方」に迫ることができた。

(5) 残された課題

- ①これまでは、まずやってみようという手探り状態で進めてきた。今後は1年次の成果を活かしながら、さらに新聞活用を進めていくことが課題となる。
- ②本年度は、目的的な活用のC「新聞をつくる」を主に進めてきた。4年1組の実践を他の教室にも広げていきたい。その際、新聞づくりが目的にならないように配慮する必要がある。
- ③目的的な活用のA「新聞で学ぶ」、B「新聞を学ぶ」についても、考えていきたい。